

突如襲ってくる震災

日頃からの備えが命を救う

昨年3月11日に発生した東日本大震災から間もなく1年。突如襲ってきたこの大震災で、本市も屋根の損壊など数多くの被害を受けました。

災害はいつ起こるか分かりません。万が一のときに尊い人命や財産を守るために、普段から被害を抑える為の取り組みを心掛けておくことが大切です。今一度、身の回りの防災対策について確認しておきましょう。

問い合わせは
危機管理室 ☎898-5935

東日本大震災により被害を受けた街の様子
(福島県いわき市)

写真提供:いわき民報社

震災発生時の行動

震災発生時の行動の例を紹介します。まずは自分の身の安全を確保しましょう。

■自宅

- 落下物から身を守る
- 料理中の場合は、すぐに火を消す(無理はしないこと)
- トイレや入浴中の場合は、ドアを開けて避難口を確保する



■繁華街や住宅街

- 手荷物などで頭を守る
- 倒壊などの危険があるため、建物や塀、電柱、自動販売機などから離れる



■エレベーターの中

- 最寄りの停止した階で降りる
- 閉じ込められた場合は、非常ボタンなどで連絡を取って救出を待つ



■海岸付近

- 津波が来る恐れがあるため、すぐに海岸から離れ高台などの安全な場所へ
- 警報・注意報が解除されるまで海岸に近付かない



■デパートなど

- 柱や壁に身を寄せ、手荷物などで頭を守る
- 店員の指示に従って行動する。慌てて出口に殺到すると危険です



■車の運転中

- 急ブレーキをかけない
- 道路の左側に停車してエンジンを切る
- 鍵を付けたままにし、貴重品を持って徒歩で避難する



震災発生後の行動

震災発生後の行動の例を紹介します。周囲の安全を確保しましょう。避難する際は落ち着いて行動することが大切です。

■避難する際は

- ヘルメット、軍手、長袖・長ズボン、底の厚い運動靴などを着用する
- 荷物は最小限に。両手が自由に使えるリュックサックなどに入れる
- 車は使用せず、徒歩で
- 避難は近所に声掛けを行い集団で。日頃から近隣の人や自主防災組織を確認しておく



自宅から離れた場所で帰宅が困難な場合は…

- ラジオやテレビなどで正確な情報を把握する
- 勤務先や避難所など安全な場所で待機する
- 勤務先などに飲食料やラジオ、懐中電灯などを用意しておく



■とっさの行動ができるように
震災発生時や避難する際は、自分がいる場所・状況によって行動が違ってきます。その例を紹介しますので、上図の項目をよく覚えて、とっさの行動ができるようにしておきましょう。

また、普段から複数の避難場所と避難場所までの安全な経路を確認しておくことも大切です。

■今すぐ備えてください

震災発生後、救援物資が被災地に

などで転倒・落下を防ぎつつ、配置を工夫しましょう。食器棚などは、ガラス飛散防止のフィルムを貼ると効果的です。また、開閉防止金具を付けると食器などが飛び出るのを防げます。

■身近な頼れる存在・自主防災組織
災害が発生したときに自主的に救出や初期消火、避難誘導などを行うのが自主防災組織。本市では現在、285自治会中、179の自治会で自主防災組織が設立されています。

昨年の東日本大震災以降、多くの自主防災組織が危機意識を新たにし、防災訓練や防災講座などを積極的にを行っています。

万が一のときは、自主防災組織と協力しながら避難しましょう。

災害への備え チェックシート



このチェックシートを活用して非常用備蓄品・持ち出し品をそろえてください。チェックシートは切り取って利用すると便利です。そろえた物はリュックサックなどにまとめておきましょう。

●非常用備蓄品(3日分が目安)

- ☐ 簡単な調理で食べられる食料
- ☐ 飲料水(1人1日3ℓが目安)
- ☐ 卓上こんろ・燃料
- ☐ やかん
- ☐ 毛布
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ 粉ミルク・オムツなど

●非常用持ち出し品

- ☐ 現金(小銭が便利)などの貴重品
- ☐ ラジオ
- ☐ 懐中電灯・予備の電池
- ☐ 救急用品・常備薬
- ☐ 衣類・タオル
- ☐ ヘルメット・軍手・雨具
- ☐ ライター・マッチ
- ☐ 洗面具・生理用品など

被災地 派遣レポート



いわき市役所生活環境部
環境整備課へ派遣
西尾 公男

地震により損壊した家屋などの解体撤去業務に従事しています。昨年の震災により、いわき市内の4,000棟を越す建物が半壊以上の被害を受けました。損壊した建物で、やむを得ず解体が必要なものについて、所有者の申請に基づき解体撤去を行っています。しかし、対象となる建物の数が多く、思うように解体作業が進まない状況です。

いまだに多くのいわき市民が不便な生活を送っていますが、最近では相談に来る人の中に、生活再建に向けて新築を計画している人も増えてきました。いわき市の復興が市民レベルでも少しずつではありますが進んでいることが感じられます。

いわき市に来て7カ月がたちました。いわき市民の皆さんが、一日も早く元の生活を送れるよう残り1カ月頑張ります。